平成３１年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（朝日）小学校

武雄市は平成２４年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校６年生、中学校３年生は全国学習状況調査、その他は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、今年度から国語、算数(数学)共にこれまでのＡ問題、Ｂ問題の区別なく「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題調査となりました。また、今年度は、中学３年生において、３年に１度の英語の「話すこと」調査も実施されました。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

１　児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
H27 入学 現 5 年	62.1 (0.95)		62.5 (0.96)	
H26 入学 現 6 年	61.6 (0.92)	60 (0.94)	67.9 (0.96)	63 (0.95)
H31 正答率の全国比		(0.94))		(0.95)

◎5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段(　　)は、県平均を１としての比較。

◎「Ｈ３１正答率の全国比」は全国平均を１としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【５年】

（学習状況調査より）

国語

知識・理解・技能については「おおむね達成」と比較し，4 ポイント上回っている。漢字の読み書きについてはよく理解できているが，ローマ字ついては定着していない部分がある。全体としては「おおむね達成」に達しているものの，全領域とも県の正答率を下回っている。特に，内容や心情を読み取る点において，「おおむね達成」よりも 15.8 ポイント下回っている。書いてある内容から事実や登

場人物の心情を捉えたり，事実と意見を区別したりすることが課題である。また，記述で答える問題について，無回答も多いことからも，自分の考えを書き表すことに抵抗を感じていることが伺える。

算数

全体では「おおむね達成」を上回っており，技能については「おおむね達成」よりも 8.6 ポイント上回っており，四則計算は身についていると考える。しかし，思考力を問う「考え方」については，「おおむね達成」からは 8.8 ポイント下回っている。具体的な根拠を挙げて説明する際，解答するための事実を捉え切れなかったり，事象同士を関係付けて考えることができなかったりすることが伺われる。これらの問題は，前学年の学習内容を活用しながら取り組むことが要求されているため，これまでの既習事項の定着が課題であると考える。

（意識調査より）

- 「朝食をとる」「決まった時間に寝る」といった基本的な生活習慣については多くの児童は身についているが,10%程度の児童は午後 11 時以降に就寝と回答し，該当児童の多くが，翌日の学習に影響していることも考えられる。月曜から金曜に３時間程度，テレビやゲーム，インターネット等の機器に触れている児童が全体の 30%程度いる。また，使用時の約束をしているが，守っている児童は半数以下である。図書館の利用回数は県平均に比べ多いが，家庭等で読書をしている児童は比較的少ない。また，読書時間が 30 分以下の児童が 60%程度いることから，読書習慣が十分に身についているとはいいがたい。
- 学習において，どの教科においても学習のめあてが示されていて，見通しを持った学習がなされている。また，どの教科も「好き」と回答した児童が多い。しかし，思考を伴い，自分なりの考えをもちながら学習を進めることに対し，苦手意識を感じでいる児童が多い。理由を付け加えたり，順序を考えながら筋道を立てたりして話すことに難しさを感じている児童もいる。友達の前で自分の考えを発言する機会を設定していく必要があると思われる。ＩＣＴ機器を活用するなどの工夫した発表方法もよりいっそう充実させ，発言することへの抵抗を減らしていきたいと考える。
- 家庭学習について，学習時間が１時間以内の児童が，平日で 43%，休日では 54%いると多く，家庭学習の時間は十分とはいえない。多くの児童は「宿題をする」ことは定着している。これは，ゲームやテレビ視聴の時間となどの生活習慣と大きく関係していることから，基本的な生活習慣の確立をさらに定着させていきたい。多くの児童が予習を中心とした学習だか，自主的に予習・復習に取り組んでいる児童も３割程度見られる。

【６年】

（学習状況調査より）

国語

すべての領域において県の正答率を下回っている。特に「書く」ことについては全国に比べ 8.8 ポイント，県では 8.7 ポイント下回っている。たずねられている課題から，必要な事項を抜き出し，目的や意図に応じて，自分の考えの根拠を明確にし，まとめて書くことが課題である。また，無回答が 5.5%見られることから，書くことに対する抵抗を減らす取組を行うことも必要である。

算数

全体では，全国，県ともに正答率の比較では下回っている。特に図形領域については，8.4 ポイント下回っている。図形の性質や構成要素に着目し，ほかの図形に当てはめて考えるといった既習事項を活用する力の育成が必要である。記述する問題についても，これまでの学習を想起し，適応させながら課題に取り組むといった学習を進めていくことが課題である。

（意識調査より）

・　「朝食をとる」「決まった時間に起きる，寝る」といった基本的な生活習慣については多くの児童は身についている。しかし，就寝時間等が遅く，翌日の学校生活に影響がある児童もいる。将来の夢や目標を持っている児童は多いが，20%程度の児童はもてていない。しかし，学校内外を問わず，失敗を恐れず前向きに取り組んだり，何かをやり遂げることに喜びを感じたりする経験がある児童が多い。また，「困っている人に対し，助ける」と回答した割合は 95%で，「人の役に立ちたい」と感じている児童も 96%いる。

・　授業を中心とした学習において，国語は 40%，算数 25%の児童が好きではないと回答している。国語では，80%の児童が自分の考えを書いたり，話したりという活動には取り組んでいるが，相手意識を持って取り組もうとしている児童は 60%と少ない。算数では，学習内容が普段の生活に活用できる場面を多く経験しているために，学習においても，さまざまな解決方法に取り組んだり，最後までやり遂げようとしたりする児童の割合が県や全国平均を上回っている。

・　家庭での学習について，計画的に学習に取り組んでいる割合は 70%程度である。学習時間は，半数の児童が２時間程度であるが，全くしないという児童もいる。また，読書時間については，読書自体は好きで，全国平均に比べ，読書時間や図書館利用回数は多い。今後は，新聞などの身近にある資料を活用した学習に取り組んでいく必要がある。

２　改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

・学習における「静」の時間を意識した授業実践に取り組む。
・学んだことを自分の言葉で表現させる場として、キーワードを提示して、「ふりかえり」の時間を設定し，キーワードを使って記述させる。
・授業のふりかえりや毎日の日記やノート，ワークシートの記入など，適宜，書く活動を取り入れて文章表現に慣れさせる。また書いた作品を掲示して読み合うことで関心を高めていく。また，全校共通したノート指導の徹底を図る。
・西部型授業を基本とした学習過程を意識する。
・自主学習ノートや予習に取り組んだ学習内容を紹介し，家庭学習へ意欲付けにする。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

・「静」の時間，場を学校生活の中に設定し，児童，教師ともに，より一層の意識の徹底を図る。
・本の読み聞かせなどで読書の楽しさを味わわせ、本に親しむ機会を増やす。また，ジャンルに偏りがでないような声かけなど，読書習慣の工夫を図る。
・学校行事や学級活動等の中で，子どもたちの自主活動を奨励し，補助的な支援をしながら自己肯定感，自己有用感を高めたり，達成感を味わわせたりする。